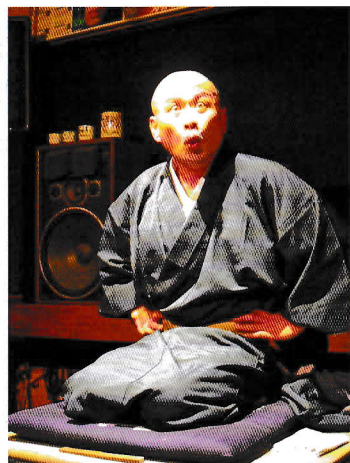


# 『馬ノ助 初落語に挑む』

～ライブハウスハミングバードⅡにて～

十和田市 松本茶舗 松本恵美子



「今度は落語をやりますねん。」  
植田祐介の一人芝居を楽しみにしていた私だが、一見似ていて全く異なる落語を彼はどう料理するかと思うと好奇心でワクワクした。  
5月29日、十和田市稲生町のライブハウス、ハミングバードⅡは落語の演芸場に変わっていた。  
店内は、マスター工藤さん苦心の手作り高座が設置されていた。客が椅子にすわると、いい具合に話し手を見上げる絶妙な高さだ。  
この日は、植田こと子午線馬ノ助の独演会ではなく、前座を馬はなし亭春助(田貫)が務めた。どちらも一人芝居もこなす役者だが、落語のみで勝負という大胆企画。  
開演を待つ店内。いつものライブ開演前とは違う硬い緊張感が客席にも感じられた。考えてみれば、来ている人達の多くは、役者の落語ということと、どんな展開になるのか客も緊張していたのかも。なんだか居づらい気持ちのまま、落語会は始まった。

物事何でも最初が肝心。春助が本題「つる」の前のつかみネタのジヤブを連打するが、なかなか客の硬さはほぐれない。私自身、自分の中から自然な笑い声が出てくるタイミングを待っているような変な落ち着きのなさを感じていた。  
笑いたいところで声をあげて笑えないというのは、話し手だけでなく客もストレスを感じる。予想以上の硬さに春助も苦戦したかもしれない。  
それでも、次第に、気持ちほぐれ、客席から自然な笑い声が出るようになり、最後には会場は笑い声と拍手で盛り上がりつつあった。  
春助の善戦奮闘の甲斐もあり、場の空気は少し和らいでいたが、まだまだ、硬い空気の中で、馬ノ助の出番。  
演目は「はてなの茶碗」。

茶店を出された1つの水漏れする湯呑茶碗をめぐる、日銭稼ぎの油売りと京都でも名うての大茶道具屋主人金兵衛(茶金)とのやり取りの後、廃棄寸前の欠陥茶碗が奇遇な縁で天子様(当時の天皇)の箱書きをもらい、ついには千両の値がつくという、人情断に茶碗の出世物語がプラスされた、とても小気味良い断。  
落語の本題に入る前のつかみで、会場内の笑いを取ったかと思うと、いつの間にか私は、二百年前の徳川時代、京都の商人町を腕組みして覗く見物人の一人になっていた。  
登場人物は多種多様。端役も入られてセリフのある人物がなんと8人。油売りはちよいとやくざだけど義理堅い大阪モン、茶金は大人の京商人、この二人だけでも両極端な人格なのに、この他、生粋京都人の小さな茶店の主人やら、茶道具屋の少々オツムの軽い丁稚どんや生真面目番頭、茶碗に千両の値をつける大阪の大富豪、果ては気取ったお公家さんに天然系お天子さんまで、こんなに多くの種類の人を、馬ノ助は実に器用に色を付け、演じ分けていた。話とともに彼の中からまるでドラえもんのかぐやまのようになつたり別の人格が出たり入ったりして会話をつなげていく。断の中に引き込まれていた私は登場人物各人の性格や生い立ち、服装までイメージできていたほどだ。

Friday Amusement Negative Shop FANS(856～860回)「だべり場 2010.07」入場無料 ※演劇上演はありませんが、夢を語る場です。

演劇空間  
スペースベン

■八戸市柏崎1-11-8  
TEL. 0178-43-9876  
FAX. 050-3588-8350  
携帯. 080-6025-0990

※特別番組以外全て午後7時30分～、料金/一般前売400円 高校生以下100円(当日100円増)  
※チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。  
[HP] <http://spaceben.com/> [Eメール] [owner@spaceben.com](mailto:owner@spaceben.com)

## 7月号好評発売中!

●今月のテーマエッセイ 夏に遊ぶ

夢か幻か……………榎谷伸夫  
常夏の島……………栗谷川奈々子  
遊びの移り変り……………鶴谷孝一  
花火……………三浦綾子  
夏の日のおもひで……………しもさき博之  
「夏に来てね」……………泉山



●今月のインタビュー

フリーアナウンサー

三浦由起子 さん(26歳)に聞く

読む楽しさ 読物満載

毎月ご愛読ありがとうございます

発行所/うみねこ出版社  
八戸市六日町10いわとくパルコ3F  
TEL・FAX 0178-44-6636